

## ユネスコのジオパーク活動

Margarete Patzak<sup>1)</sup>・Robert Missotten<sup>1)</sup>

### ユネスコの役割

地球上のさまざまな文明, 社会, 文化は, その地質や景観に大きく影響されてきた。私たちの子孫が地質や景観から学び, 限りない恩恵を受けることができるよう, それらの保存はそれらが持つ意味や美しさ, あるいは科学的価値という点からだけでなく, 環境教育を通じて持続可能な発展につながる形で行わねばならない。地質学, 地形学的に重要な場所を何らかの仕組みで認定している国々は増えてきているが, こうした重要性のある場所を認定, 保護, 整備する場を提供する国際プログラムは, 数えるほどしかない。

ユネスコはこれまでに, 世界遺産条約と世界ジオパークネットワークという, 地質遺産に関する2つの協力プログラムの枠組を作り上げている。

地球科学分野でユネスコが支援, 推進する最も新しい構想のひとつが, 世界ジオパークネットワークである。このネットワークは世界の全地域を対象として, 独自のガイドラインと勧告事項にしたがって, 共通の価値観, 関心, バックグラウンドを持つグループ同士を結びつけようとしている。

### 世界ジオパークネットワーク (GGN : Global Geoparks Network)

世界ジオパークネットワーク(口絵参照)は地質遺産の保存, 研究, 持続可能な発展に取り組むもので, 価値の高い地質遺産を活用して持続可能な発展をめざす地域であれば, 世界のどこであれその対象となる。

1990年代中頃, ユネスコ地球科学部門は地質遺産に関する議論の活性化を図り, それが20世紀末に制度化され, 2001年, ジオパーク活動として大きく進展

した。各国のジオパークを支援するというユネスコの構想は, 多くの加盟国で地球科学コミュニティから出された要請に応えるものだった。2001年以後, ユネスコが世界ジオパークネットワークを通じて行ってきた各国への支援は, 最良の実践モデル開発, 地域の持続的経済発展戦略に地質遺産保護を組み入れる際の基準を設定する, などの枠組を提供することである。

ユネスコがこの構想の進展を支援しているのは, 地球科学を企業の視野に入れてもらうことだけでなく, 政治家, 政府や地方の行政担当者に, 地球科学をもう一度政策課題に載せてもらうためである。各地のジオパークでは, 旅行業者など観光関連の業界との連携を深める目的で, 多くの活動が進められている。これらの業界は国際的な枠組の存在を望むことが多いが, ユネスコであればこの要請に応えることができるし, ユネスコのもとでこの事業を行えば, 各国政府の関心はいやが上にも高まる。ユネスコには各国の意識を向上させる大きな力があり, 加盟各国代表に情報を流すことによってその力を大きく発揮することができるからである。ユネスコは国連の中で唯一, パリ本部に各国の信任大使を置く機関である。大半の国が二人の大使をパリに常駐させ, 一人はフランスとの二国間協力を, もう一人はユネスコとの協力を担当している。この特権を利用して, ジオパークとそのネットワーク作りを政治家に認知させ, ジオパーク活動の可能性を説明すれば, 新たなジオパークの創設に政治面からの支援を要請することが可能となる。そしてそれによりユネスコの国際ジオパークネットワークへの加盟を希望する地域の構想への理解が進み, さらなる支援を得られることになる。

ユネスコはコミュニケーション戦略の強化を目的として, ジオパークのパンフレット第二版を発行した。ウ

1) ユネスコ環境地球科学部門 ジオパーク事務局

キーワード: ユネスコ(UNESCO), 地質遺産, 世界遺産, 各国のジオパーク, 世界ジオパーク

ウェブサイトの他にも、複数のメディアを使ってコミュニケーションを図っている。

ジオパークの設立には強力な構想と、しっかりした財政支援に基づく長期にわたる政治的決意、整備された運営組織が欠かせない。ユネスコは「ジオパーク構想」を地球科学や遺産の保存、環境について広く人々に教育を施す優れた手段であるとして着想、創設した。ユネスコは他機関と国際的な連携をとり、加盟国から地質遺産に関する努力の要請があれば必要に応じて臨機応変かつ積極的に支援を行っている。世界ジオパークネットワークには、すでに世界各地から50のジオパークが加入しており、ジオパークは「世界遺産」や「人間と生物圏(MAB: Man and biosphere)」という二つのプログラムと互いに補完しあうものだと見なされている。

社会経済の発展と自然環境の保護が相互に作用することで、国際的な保護の場には新たな側面が付け加わる。ジオパークでは、人々と地質の関わりの強化や地質遺産が、経済発展の核として働くようにすることが大事だと考えている。世界各地で次々とジオパークが設置されていることは、この分野でともに力を合わせてゆく必要性に世界が気づきはじめた証である。実際に申請件数はこの2年間で二倍になり、さらに新たな申請が世界各地から続々と出されている。

ユネスコはまた、世界ジオパークネットワークを高い水準に維持したいと強く望んでいる。ジオパークに関する知識をきちんと伝えるため、研修や指導、ジオパーク同士の姉妹関係の締結といったことが非常に効果的だと、ユネスコは考えている。ここで強調しておきたいのは、ユネスコは世界のジオパークのリストを立派にすることを目指しているのではない、という点である。ユネスコが考えているのは、国際ネットワークの加入数をただ増やすのではなく、ジオパークという考えをより発展させて、信頼に足る本物のネットワークを作り上げることなのである。ジオパーク同士のネットワークこそが世界ジオパークネットワークのもっとも重要な要素である。ユネスコ支援のジオパークについてのガイドラインは、以下のユネスコのウェブサイトから入手できる。<http://www.unesco.org/science/earth/geoparks.shtml> (訳注:日本語訳が日本地質学会ジオパーク設立推進委員会のウェブサイト<http://www.geosociety.jp/organization/geopark/>にある)。

## ジオパークとは何か?

それぞれのジオパークはネットワークの一員として

1. 現在、そして未来の世代のために地質遺産を保存する
2. 地球科学とそれが環境問題とどのように関わっているかについて、広く社会に教育、学習を行う
3. 持続可能な手段を用いて、社会経済や文化の発展を図る
4. 参加型の構想のもと様々な階層の人からなる共同体を作り上げ、地質遺産の保護にあたって少数民族の文化など多文化性を考慮し、地質多様性と文化的多様性を維持する
5. 適宜、研究の奨励を図る
6. コミュニケーション、出版、情報交換、姉妹提携、会議参加などの連携を通じ、積極的にネットワークの存続に貢献する

2004年6月にはユネスコのジオパーク活動が強化され、また中華人民共和国国土資源省の惜しみない支援により、世界ジオパーク事務局が北京に設置された。

ユネスコの傘下に入り、世界ジオパークネットワークの加入者と協力することで、加盟ジオパーク同士はその知識や専門技術、経験、スタッフを交換・交流することができる。一地方あるいは一国で地質学的に価値があるとされた場所が世界に認知される利点は大きい。一地方単独で進めるより、ユネスコが推進するこの国際パートナーシップに加わるほうが、世界的ネットワークの一員となってさまざまな恩恵を得られるのである。

ユネスコのこの構想は多くの国々から出された要望に応えるもので、地球における生命の歴史を見守ってきた地球の遺産、つまり景観や地層の意義を高めるための国際的枠組み作りである。2001年6月ユネスコ執行委員会で行われた決議(161 EX/Decisions, 3.3.1)によれば、ユネスコは、地質学的に特別な地物を持つ地域や自然公園を推進するため「加盟国とともに適宜特定目的の試みを支援する」よう要請されている。ユネスコの支援を求めた各国のジオパーク構想には、貴重な地質遺産の保護を地域の社会経済、文化を持続的に発展させる戦略が組み込まれ

なくてはならない。

世界ジオパークネットワークは、ユネスコの地質遺産センターや人間と生物圏(MAB)の生物圏保護区域世界ネットワーク、各国での事業、国際的の事業、地質遺産保護に熱心な非政府機関などと密接な相互関係を保って運営される。ヨーロッパについていうと、ユネスコは欧州ジオパークネットワーク(EGN)と優先的提携関係を築いており、他の地域でも地域独自の条件を考慮に入れながらこうした地域ネットワークを作るよう推奨している。ユネスコはヨーロッパ各国のジオパークには、まずEGNに加盟し、そこを通して国際ネットワークに加入するよう提案している。この協力は欧州内外でさまざまな合同会議や専門家調査などの形で、非常に活発に行われている。

世界ジオパークネットワークに加入を希望するジオパークは、地域の経済文化の(主に観光による)発展に寄与できるよう十分な規模があり、明瞭に区画された区域でなくてはならない。区域内には国際的に重要な地質学的遺産ともいえる場所(その規模は問わない)が数多く存在する、あるいは科学的に特に重要である、あるいは珍しい、あるいは美しい地質学的構成要素が散在していることが必要である。ジオパークはことさら新しいタイプの保護区や景観というわけではないが、完全に保護され管理された国立公園や自然公園とも全く異なっている。ジオパークの管轄機関はジオパーク内の地質遺産を地域の伝統あるいは法規制にしたがって確実に保護し、それぞれの場所や地質学的露頭の保護レベルや対応策についてはジオパークが存在する国の政府が決定する。

特定の地域や空間を保護や教育、持続可能な発展などの対象とする場合に、その一部として地質遺産が含まれているものをジオパークと呼ぶ。地質学的意義を持たない見所も、特に地形や地質との関係を利用者がよく理解できるものならば、それを含めてかまわない。自然史、文化史、社会史は多くの社会で互いに深く結びついており、分けて考えることはできないので、生態学的、考古学的、歴史的、文化的価値をもつ見所もジオパークに含める必要がある。

世界遺産リストに掲載されている、あるいはユネスコの人間と生物圏プログラムの生物圏保護区(MAB)リストとして登録されている地域とジオパークが全く同じ区域である、あるいはその全体または一部が互いに重複する場合、世界遺産ないしMABを担当す

る機関から事前に認可を受ける必要がある。現在、生物圏保護区ではフランスのリュベロン地方自然公園と中国の伏牛山が、世界遺産ではドイツのメッセルピット化石遺跡、中国の廬山および泰山の3箇所が国際ジオパークネットワークに加入している。

ジオパーク企画が成功するためには、運営団体と運営計画をつくることが前提条件であり、見ごたえのある国際的に重要な地質学的露頭がそこにあるからというだけでは不十分である。ジオパークは、園内の各地点を利用者が行き来し、地質学的見どころに容易に近づくことができ、きちんとした管理のもとに保護されていなければならない。ジオパークは単独または複数の地方自治体が指定を受け、適切な管理施設、優秀な人材、十分な財政基盤のもとに運営を行う。

ジオパークは科学的研究や幅広い環境教育に道を開くほかにも、地域の経済開発という大きな将来性を持っている。ジオパークというテーマに関連した新たな雇用や経済的取り組みを生み出すことも可能である。また観光(ジオツーリズム)や商業、持続可能な産業としての新たな手工芸品など(ジオプロダクツ)、新たな方向性を切り開くこともできる。これらの工芸品はたとえば、化石の模型や土産品など、地質に関連するものである。ジオパークは、環境を重視しつつ、意欲的な地方企業やスモールビジネス、家内工業などの新たな仕事を創出し、新たな収入源を生み出すきっかけとなりうる。これにより地域住民は新たな収入を得、企業の誘致も可能になる。鉱業が盛んで過剰な採掘が行われている地域をジオパークにすれば、住民には持続可能な観光という新たな収入の道が開ける。地域への影響はすぐに現れ、人々の生活状態や地域環境は向上し、土地への帰属意識が高まり、地方文化のルネッサンスへのきっかけとなるだろう。

## ネットワークに加入するには

各国のジオパークがユネスコの支援を仰ぎようとする場合、ユネスコ生態学地球科学部門の地球観測課に連絡して頂きたい。応募の準備にあたっては、ユネスコ内のジオパーク事務局とその専門家のアドバイスを受けることを強く勧める。さらに、各地質調査所、地方自治体、観光局、地域の団体、大学や研究所、民間の利益団体などと協力を探り、ジオパークプロジェ

クトを担当する立ち上げチームの組成をより幅広いものになくなくてはならない。これらのグループはその地域の科学や保存、社会経済に関する代表とならなくてはならない。地域では地元住民を含めた幅広い協議を行って、彼らが計画中のジオパークを容易に受け入れられるようにし、かつジオパーク応募書類の記入時には強固な構想が作られているようにすべきである。応募用紙の査定と諮問活動は、それぞれの専門家が担当する。

応募ガイドラインはウェブサイト (<http://www.unesco.org/science/earth/geoparks.shtml>) から入手されたい(訳注:日本語訳が日本地質学会ジオパーク設立推進委員会のウェブサイト <http://www.geosociety.jp/organization/geopark/> にある)。ヨーロッパの場合、欧州ジオパークネットワークが協力して評価する。ヨーロッパの地域が国際ジオパークネットワークに加入を希望する場合には、ユネスコ地球観測課を通じて欧州ジオパークネットワークに応募書類すべてを提出しなくてはならない。

現時点で、加盟15カ国から50の国立ジオパークがユネスコの支援する国際ジオパークネットワークに加入している(口絵参照、ジオパークのリストは<http://www.unesco.org/science/earth/geoparks/list.shtml>

を参照されたい。訳注:日本地質学会ジオパーク設立推進委員会の上記ウェブサイトにもリストがある)。また、以下のジオパークが現在応募書類を準備中である。

地質鉱山公園 (Parco Geominerario, イタリア, サルジニア島)

ランカウィ島 (Lankawi, マレーシア)

ゴンドワナランド ジオパーク (Gondwanaland, ナミビア)

M'goun山 ジオパーク (モロッコ)

Papuk ジオパーク (クロアチア)

また、オーストラリア、ブラジル、カナダ、チリ、フィンランド、ドイツ、アイスランド、アイルランド、日本、ケニア、メキシコ、ナミビア、ニカラグア、ノルウェー、スイス、英国など多くの国々からジオパークに対し、関心が寄せられている。

日本語訳は宮野素美子(地質調査情報センター)と渡辺真人(地質情報研究部門)が行った。

---

MARGARETE Patzak and ROBERT Missotten (2007) : Geoparks activities of UNESCO.

<受付: 2007年4月2日>